

科目名	人間科学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅 一 郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを理解してもらうことを目的とする。人間科学の研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法について理解し、各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについて特別研究指導教員が説明する。人間科学で研究する上で「常識」とされる知識を了解していただきたい。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>豊かな知識・教養に基づく高い倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間科学を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、①研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、②自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、③研究倫理について、研究を進める上でやってはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。 自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材(OER)を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。</p>		
スケジュール	<p>この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつくかぎり、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業(在宅学習)2単位分：基本教材1></p> <p>前期：できるかぎりスクーリング前までに基本教材1および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてレポート課題を作成し、9月20日までに最終稿を提出する。</p> <p><スクーリング 2単位分> 夏期(7月中旬) 冬期(11月中旬)</p> <p>修士課程在学期間内に夏期あるいは冬期、いずれかのスクーリングに必ず1回、原則として全日程出席すること。夏期・冬期は基本的に同じ講義内容で構成される。</p> <p>①人間科学における研究とは(論文の構成を含む)、研究倫理、文献検索の方法、引用・参考文献の示し方、等</p> <p>②人間科学専攻・各コースの講義：(哲学、心理学、教育学、医療・安全学、スポーツ科学)の研究手法。</p> <p>1) スクーリング・レポート課題1：スクーリング1週間後(初稿のみ)</p> <p>2) スクーリング・レポート課題2：スクーリング終了の1か月後(初稿のみ)</p> <p>※最終稿は、平成31年1月15日までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	50%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)ゼロ点となります。 草稿を一度も出さず、提出期限間際にいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は69点以下しか得られません。
	平常評価	50%	レポートの内容(論旨、構成、独創性) 課題1：10%、課題2：30%、参加度(討論、発表)：10%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 スクーリング受講前に、基本教材1に必ず目を通して下さい。 いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。 レポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねるのではなく、論文の体裁で書いて下さい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著) 教材名： 『人間科学研究法ハンドブック (第2版)』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税
	心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章(研究とは何か)、第2章(データの収集)、第3章(研究の設計と管理)、第4章(人間科学における研究倫理について)、第5章(文献調査の方法)、第6章(メッセージ分析)、第7章(観察法)、第8章(調査的面接法)、第9章(フィールド研究におけるインタビュー)、第10章(質問紙調査法)、第11章(実験法)、第12章(研究論文の書き方1)、第13章(研究論文の書き方2)
参考図書	新堀 聡『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税 トゥラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 三浦麻子『なるほど! 心理学研究法(心理学ベーシック第1巻)』(北大路書房, 2017年) ISBN978-4-7628-2966-6 2,200円+税
履修上のポイント	参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。 夏期および冬期のスクーリングの講義では、基本教材1についての話題を中心とする予定である。
レポート課題 1	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、レポートの最後に全体についてのコメントを述べること。 留意点 ：各章を、800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること(合計7,000字~8,000字程度を目安にすること)。教材の引き写しは評価の対象外とする。
レポート課題 2	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことを中心に、3,000字~4,000字でまとめること。 留意点 ：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： スクーリングで提示された推薦図書 教材名：
参考図書	杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』(サイエンス社, 2005年) ISBN 978-4-78-191078-9 1,900円+税 山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税
履修上のポイント	スクーリングの講義で分からなかった専門用語を参考書で確認することが望ましい。
レポート課題 1	スクーリングの専攻別講義の概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げて構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること(1,000字~1,500字)。 留意点 ：
レポート課題 2	夏期：各分野の研究手法の講義や参考図書、スクーリングでの発表と討論を踏まえて、 <u>研究計画書</u> をまとめる(3,000字~4,000字)。 冬期：各分野の研究手法の講義や参考図書、スクーリングでの発表と討論を踏まえて、 <u>研究経過報告書</u> をまとめる(3,000字~4,000字)。 留意点 ：指導教員のレビューを受けた上で提出する。